

新年のご挨拶



中国しんきん健康保険組合

理事長
松岡 裕司

あけましておめでとうございます。

被保険者ならびにご家族のみなさまにおかれましては、清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、日頃より当健保組合の事業運営につきまして多大なご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が再三発令され、マスクの着用や3つの密（密集・密接・密閉）の回避など新しい生活様式が求められました。その後ワクチン接種は進みましたが、ウイルスの新たな変異株による再流行の懸念もあり、未だ感染症の脅威が続いています。

一方、わが国は加速する高齢化に伴うさらなる医療費の増加が見込まれ、いわゆる「団塊の世代」が本年より75歳に到達し、続々と後期高齢者に移行することで、現役世代の高齢者医療費負担が限界に達し、国民皆保険制度そのものの存続が危ぶまれている状況です。当初「2022年危機」と呼ばれていたこの問題は、新型コロナウイルス感染症の発生により実質1年

前倒しになったという指摘もあり、事態はすでに深刻なものとなっています。

政府は「一定所得以上の後期高齢者の医療費窓口負担を2割へ引き上げる」など、現役世代の負担軽減につながる法改正を昨年成立させ、本年以降順次施行されていく予定となっております。しかし、一連の改革内容は現役世代の負担を軽減するためには決して十分とはいえず、健保組合としては一刻も早く、かつ付け焼刃的なものではない抜本改革を望むものです。

こうした状況のなか、健保組合では引き続き重症化予防を見据えた保健事業を推進してまいります。健康の維持や病気の早期発見は、定期的な健康チェックとその結果を活かした日々の健康管理が大きな鍵となります。健保組合がご案内する各種健診事業は、そうした鍵を強固にする助けとなります。健康であれば必要以上に医療機関にかかることもなく、医療費の節減にもつながります。ぜひとも積極的にご活用いただき、健康を維持されますようお願いいたします。

みなさまが病気にかかることなく、すこやかな1年をお過ごしになられることを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。